

小さし、尤眞物の事なれば、氣味は甚だ上品にして、賣買にある熊膽とは格別のもの也。

〔蝦夷國風俗記〕^二ツクナイの事 日本の過料

松前家臣に、上乘といふ役目あり、獵虎皮鷹の羽松前にて鷹の羽を鷹海鱸水豹熊皮熊膽エブリの羽ともいふなり。コ等の課を採るが主役なり、此役松井茂兵衛あたりて、アツケシに上乘し行たり、ときに同處の近村にビバセイ村といふ處あり、この村の乙名熊膽一ツ租税とす、鑑定役ありて目利をすれば、僞物に究む、よつて松井茂兵衛大きに憤り、アツケシの摺乙名イコトイを呼出し、吟味を究れば、贋なり、贋を貢物に出すは、摺乙名の科也、日頃の教爾の不埒なりと大に呵り威されたり、依てイコトイ彼熊膽の出處を委しく糺しければ、ビバセイ乙名クナシリ島へ渡海せし時に、交易して求得る熊膽なる事慥にしれたり、

〔蝦夷國風俗記〕^二飼赤熊の殺禮の事

蝦夷村々乙名家に飼置く赤熊盛長し、大赤熊となりたるをゑらび、その乙名、赤熊にむかひ因果因縁を説しめして曰、大幸なる哉我熊よくきけ、此秋の氏神の犠牲に備ふなり、汝未來は人間と變生すべし、依て是を樂んでいさぎよく犠牲にたつべしといひふくめ、その、ち其赤熊を縛縊し、一室にひき至り、前後左右よりつなぎとめ、土人大勢群集し、手枷せ足枷いれ、堅固にかこひて、さて首前に幣を建て、鉾太刀長刀、其外種々の長器をかざり、其後其村の乙名をはじめ、其親類及近郷近村の乙名、及び長立たる者あつまりて、大祭禮の祝儀あり、このとき家格新古によりて、其席に先後上下ありて、其席々に急度著座あり、於是射禮あり、銘々次第をそろへて矢を放つ、墓目の射法のごとし、其式禮終れば、赤熊猛勢起り、死にのぞまんとす、此ときをまち、大勢群り、棒責にして殺すなり、ころし終りて後、其死骸に種々の供物をそなへ、佛家の百味の飲食をそなへ、施餓鬼供養するに似たり、此式禮終りて其供物をもて、近郷近村の老若男女にわかちあたへ、賑恤す